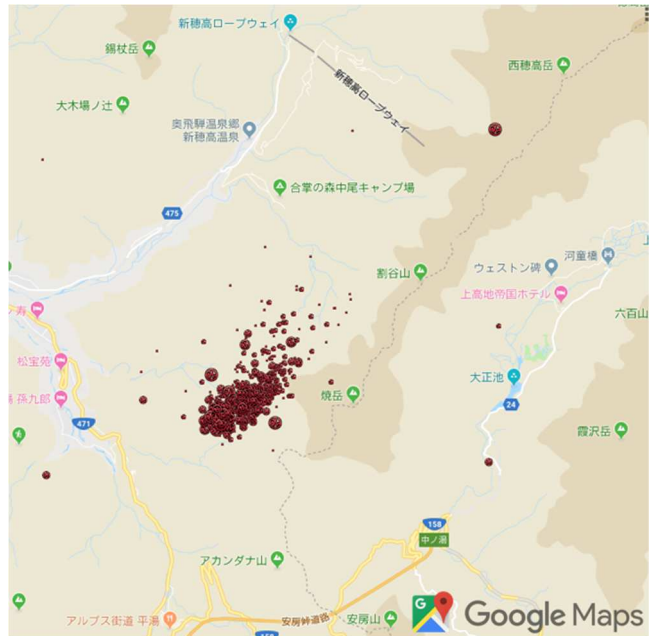


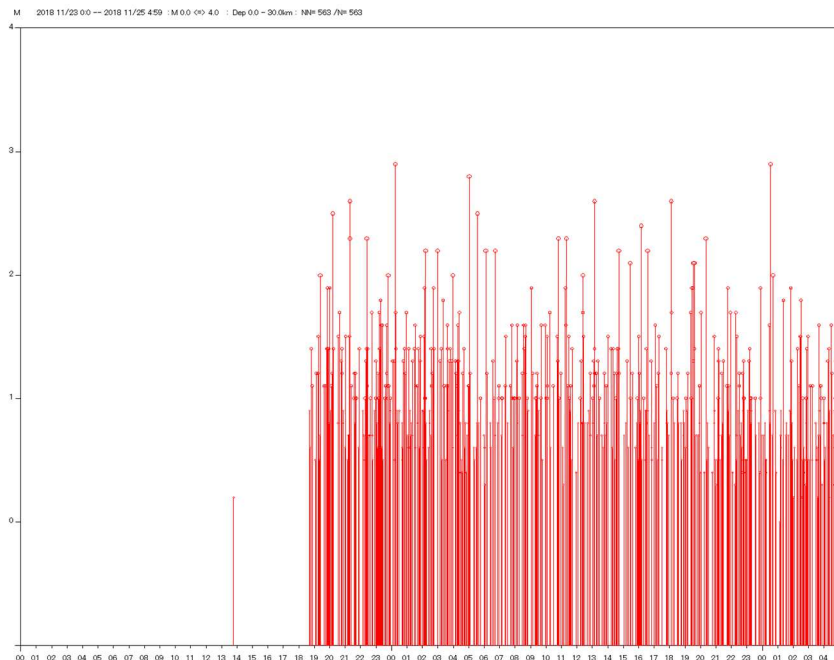
焼岳や北海道でも火山活動が活発化

11月23日18時過ぎから、長野県と岐阜県にまたがる北アルプスの焼岳で火山性地震が急増しています。ちなみに23日には2千回以上の地震が観測されました。そのため、気象庁は山頂付近では火山ガスの噴出などに注意する必要があると呼び掛けています。

焼岳は北アルプスで唯一の活火山で、2017年8月には小規模ですが、噴気が確認されています。これまでも何度も水蒸気噴火が発生しており、1915年（大正4年）6月6日の大爆発で、泥流が梓川をせき止めて、大正池が形成された事をご存知の方も多しと思います。最近では1962年に火口付近の山小屋にいた2人が噴石で負傷し、1995年には死者4名を出す水蒸気爆発が記録されています。



焼岳周辺の火山性の群発地震活動(小さな点が地震を示す。防災科学技術研究所、HINET 速報値を使用) 地震は岐阜県側で発生している



11月23日0時から24日5時までの地震活動。 多少の消長はあるものの、継続的に地震が発生している。

先週は九州から南西諸島にかけての火山活動活発化を取り上げましたが、今週は北海道の十勝岳で、22日に火山性微動が27分間に渡って観測されたり、雄阿寒岳でも噴火警戒レベルが2



に引き上げられるという事がありました。

少しずつですが、日本列島全体の火山活動が活発になっているのかもしれません。

東北地方海域の地下天気図®

10月15日のニュースレターに引き続き、東北地方沖合の海域に特化した解析です。

下に示します地下天気図は11月22日時点のMタイプです。Lタイプもほとんど同じパターンを示しています。宮城県はるか沖で青い地震活動静穏化領域が現れていますが、この地域はもともと地震活動が極めて低い地域のため、この静穏化の精度は相対的に低い（わずかの地震活動で大きく影響を受けるため）と考えています。

東北沖では10月15日にもお示したように、宮城県沖ではなく、岩手県沖のほうが地震発生の可能性が高いと考えています。

